



〈 社会人の窓 22 〉

ほんとうに逃げることができますか？

石中英司

台風2号とそれに刺激された梅雨前線による6月2日(金)の大雨の被害は甚大でした。

その日は実家の和歌山市にいました。場所は市北部で、1km北には和泉山脈があり、1km南には紀の川が流れている位置にあるため、大雨による危険度としては北側で土砂災害、南側で洪水災害の危険性に挟まれています。

6月2日午前11時49分に土砂災害の警戒レベル4・避難指示が発令されました。両親の住んでいる団地(集合住宅)は約300世帯あり、70代以上の高齢者の一人住まいも多く抱えています。各家庭にはケアマネージャーがついていますが、緊急事態時に一人一人に対応できる体制とは思えません。両親はともに90歳を超えており、移動することすらままならない状況で、同様の世帯も多いと思われる。

避難指示が出ても、自ら命をまもる行動をとることができないのが現状で、同様の状況は日本全国どこにでもあると思われる。これは高齢化の進む地方が抱える大きな課題ですが、一方都会でも別の課題があります。

普段住んでいる大阪市で大きな災害が発生した場合、避難所になっている学校は住居が被害を被って住めなくなった住民や不安でしかたがない住民しか受け入れることができないのが現実だと思われる。浸水被害だと受け入れることができるスペースはさらに少なくなる可能性があります。そうなると、多くの住民は自宅で災害がある程度収まるのを待つことしか選べません。緊急時の食料配布は避難所毎に行われるので、避難所へは食料などの物資の補給に行くというのが現実的な行動パターンになると思われる。

私は自分の町内会(大阪市内)で防災リーダーをしており、避難所訓練にも参加していますが、災害時には町内会毎に全員(約14000人)が一旦避難所に集合して安否確認を行うという前提で動いていますが、ほんとうにそんなことが可能なのかと疑問になります。避難所訓練を行うことが目的になっているような気がしています。もちろん避難



所訓練は多少非現実的な部分があっても実施することに大きな意味があるのは確かです。

原稿を書いている今(6月12日)も、梅雨前線を刺激して大雨をもたらすかもしれないため、ニュースでは警戒するようにとのことですが、さてあなたならどうしますか。今自分の住んでいる地域の危険度がどの程度なのか確かめていますか。その上で、どこまで危険が迫ったら避難するのか決めていますか。どのルートを使ってどこへ、誰と行くのかを決めていますか。それとも逃げずに自宅避難することを選びますか。

「逃げるが勝ち」ですが、実はそんなに簡単ではありません。

(淀川愛好会会員 NPO 法人日本水防災普及センター理事・事務局長)

会員の近況

澤井健二氏が河川功労者表彰を受賞

本会の澤井健二相談役が、「水工学の専門家として顕著な研究成果をあげられるとともに、淀川水系流域委員会委員、桂川河川保全利用委員会委員などを歴任し、河川整備計画の策定や適切な河川利用の推進に貢献されたほか、市民活動等を通じて、社会基盤整備の推進に貢献された」功績により、6月5日の社団法人日本河川協会定時社員総会において、河川功労者表彰を受賞されました。

石田裕子氏が教授にご昇任

摂南大学理工学部都市環境工学科の石田裕子准教授が4月1日付で教授に昇任されました。ますますご多忙になることと思いますが、本会の総務としても、引き続きご指導をよろしくお願いいたします。

小川芳也氏が大阪工業大学特任准教授に

松江工業高等専門学校准教授の小川芳也氏が4月1日付で大阪工業大学都市デザイン工学科の特任准教授に就任されました。淀川に程近い研究室で、淀川愛好会とのかかわりもますます深まるのではと期待されます。

イベント報告

大川クリーン活動&川で学び・つながる

4月30日(日)10時から14時半に大阪ふれあいの水辺付近にて大川クリーン活動&川で学び・つながるが開催されました。コロナや天候による中止が続いていたため3年ぶりの開催となりました。

クリーン活動ではふれあいの水辺の対岸に集合し、新桜宮橋と源八橋の二手に分かれ1時間ほど作業しました。草むらや橋の溝などを中心に探索し、ゴミ袋にするとかなりの量を回収することができました。なかでも多かったのはタバコの吸い殻やペットボトルでしたが、リュックサックというあまり見ないものも捨てられていました。

クリーン活動を終え大阪ふれあいの水辺で河合先生の指導による生物調査を行い、Eポート体験も行われました。水陸両用車の運行も見ることができました。(O・S)



集合場所での記念撮影

外来魚駆除釣り大会 in淀川 2023



魚を釣り上げた石田ゼミの2人

5月14日(日)に淀川の城北ワンド群にて外来魚駆除釣り大会が開催されました。雨予報ということもあり参加者が集まるか心配でしたが、約170人の方に参加していただ

きました。外来魚のオオクチバスやブルーギル、アメリカザリガニなどがたくさん釣れました。

我々石田ゼミやPBLプロジェクトの学生も大量の魚を釣り上げていたので外来魚の駆除にかなり貢献していたと思います。(K・Y)

第5回 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪 兼 第25回 近畿水環境交流会

5月20日(土)12時半から17時に大阪工業大学梅田キャンパスにて、第5回 琵琶湖・淀川・大阪湾流域圏シンポジウム in 大阪 兼 第25回 近畿水環境交流会が開催されました。ZOOMによるオンライン参加と現地参加合わせて約60名の方に参加していただきました。

12時半からのポスターセッションでは、国土交通省近畿地方整備局、大阪府河川室、河川財団近畿事務所、NPO法人日本水防災普及センター、日野川エコスクール、大和川市民ネットワーク、石田ゼミの7団体による多彩な発表が行われました。様々な研究や実験による考察がなされており、広い分野の知識を得ることができました。

13時半から澤井健二実行委員長と川野常夫摂南大学副学長による挨拶に続いて、元文部科学省初等中等教育局視学官で現在(公社)日本シェアリングネイチャー協会・代表理事である日置光久氏より自然体験による学びや考えについて、自身の体験や活動を交えてご講演いただきました。

15時からの総合討論では、近畿水の塾の久保田洋一氏、日置光久氏、河合典彦氏、小松清生氏、河川財団理事の小俣篤氏による総合討論が行われました。その中で、参加してくださった方々から質問があり、ご講演頂いた小俣氏、河合氏、小松氏からご回答いただき、水辺における安全な体験活動に向けた取り組みや、川の生物や魅力についての知識を深めるべく多くの討論が繰り広げられました。

子供がどうすれば、安全に川を利用することができるのか、鋭い質問や意見があり白熱した討論会となりました。(K・T)



会場で熱心に視聴する参加者

クリーンリバー寝屋川作戦

5月28日(日)に寝屋川せせらぎ公園と幸町公園にてクリーンリバー寝屋川作戦が行われました。コロナによる中止が相次ぎ、4年ぶりの開催となりましたが例年よりも規模を縮小して実施しました。

私たちが担当した幸町公園では草刈班、ゴミ回収班に分かれてともに川へ降りて作業しました。草は生い茂り、回収しづらい場所にゴミがあることが多く、ハードワークとなりました。ゴミの種類も多く、主にペットボトル、アルミ缶、割れたビンや陶器などの多くのゴミを拾いました。(O・S)



クリーンリバー寝屋川作戦の様子

天若湖アートプロジェクト 2023 「あかりがつなく記憶」

6月3日(土)・6月4日(日)に開催する予定でしたが、台風接近による天候の悪化が予想されたため、秋に延期となりました。(K・Y)

巨椋池流域模型ビオトープの近況

京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー構内にある巨椋池流域模型ビオトープでは、今年に入って、ビオトープ入り口付近に水車や中聖牛水制の実物大模型が設置され、また、以前摂南大学の南ビオトープに浮かべられていた全長6mにも及ぶ田舟が、京都市内の高瀬川での役目を終えて巨椋池流域模型ビオトープに移設されて、見学者の目を楽しませています。

また、昨年春までお世話をいただいていた本会副会長の今堀浄様がお身体のご都合でお世話いただけなくなりましたが、以前から植えていただいていたハスやオグラコウホネ、フジバカマ、ハナモモ、イチジク、ブドウ、ムジナモなどの大半は命をつなぎ、元気に育っていますので、ぜひご覧ください。(S・K)

今後のイベント案内

近畿「子どもの水辺」交流会 in大阪 2023

日時：2023年8月20日(日) 10:00~15:30

場所：午前の部 10:00~12:00 大阪ふれあいの水辺

午後の部 13:30~15:30 PLP会館

内容：午前 水辺活動(生きもの観察・水質調査・Eボート乗船・砂地での地形形成実験)

午後 交流会(水辺の仲間と意見交換)

対象：近畿各地域で水辺に関する活動を行っている
小中学生の団体・個人

参加費：無料

主催：近畿「子どもの水辺」交流会実行委員会

共催：近畿「子どもの水辺」交流協議会、

「私の水辺」推進協議会、

おおさか環農水研生物多様性センター

協力：(株)共立理化学研究所

助成：河川財団河川基金

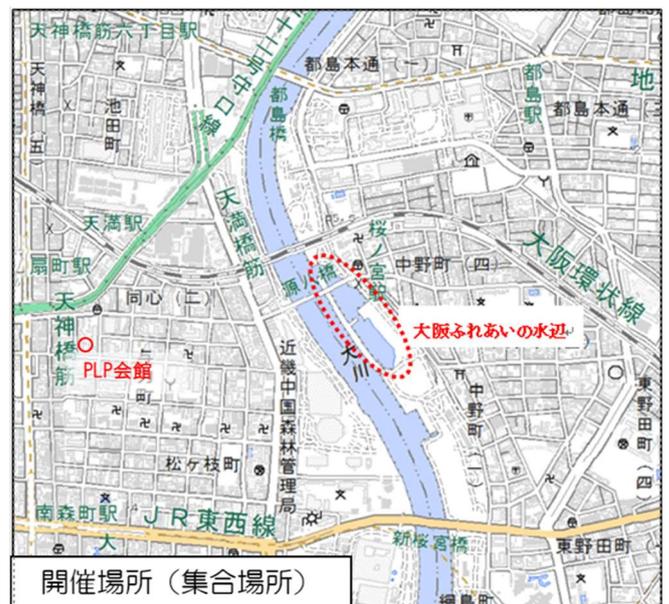
申込方法：下記のQRコードからお申込み下さい。

受付期間：7月1日(土)から7月13日(木)まで

連絡先：大阪府都市整備部河川室河川環境課

(近畿「子どもの水辺」交流協議会事務局)

TEL：06-6944-9306



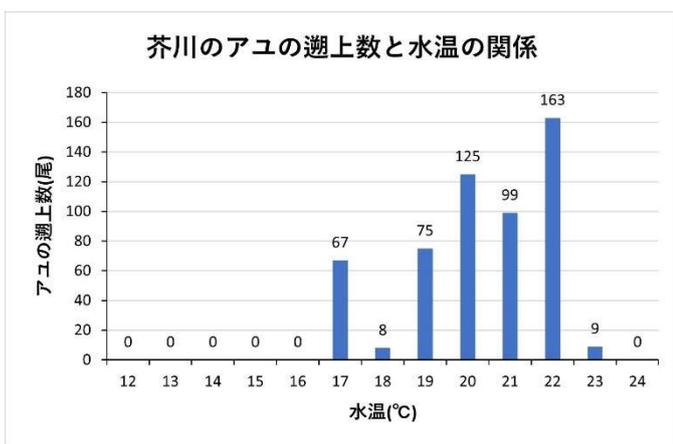
開催場所(集合場所)



芥川の遡上調査

奥村 和樹

私は卒業研究として芥川で魚の遡上について研究しています。遡上調査場所は芥川一号井堰の魚道であり、調査期間は5月1日～8月31日までです。6月12日までの調査で遡上した魚はアユやオイカワ、ニジマス、モツゴが遡上しています。ここでは6月12日時点で最も遡上しているアユについてまとめています。下図よりアユは水温が17℃～23℃の間で遡上していることがわかります。その中でも、水温が20℃～22℃でよく遡上していることがわかります。また、水温以外の遡上要因として降雨から2、3日後によく遡上していることも分かっています。アユの遡上数としては去年の49尾に対し546尾遡上しており、約10倍になっています。また、これからの時期はアユの遡上が終わり、ほかの魚種が遡上する時期となってくるのでどのような魚種が遡上してくるのか楽しみです。



(摂南大学理工学部都市環境工学科石田ゼミ 4年生)

書籍紹介

「自然に親しみ、学び、ともに生きる」

発行：令和4年1月

著者：日置光久

発行：公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会

自然に対する多角的な考え方やネイチャーゲームという自然と触れ合う遊びについて書かれている一冊です。元東京大学特任教授の日置光久先生が身近な自然現象の仕組みや、読者の気になる質問など、分かりやすい図とともに解説しています。さらに全ページの下部にネイチャーゲームを紹介しており、大人や子どもが自然を身近に感じることができる遊びを知ることができます。コロナ禍で滞っていた自然とのふれあいを再開できる一冊となっています。(0・I)

※この冊子は「シェアリングネイチャーライフ Vol.10～34の一部抜粋で構成されています。」

編集後記

淀川愛好会相談役の澤井健二氏が社団法人日本河川協会から河川功労賞を受賞されたことは、我がことのようにうれしく思います。

淀川愛好会の会長や相談役などの数々の会の会長を務め、しかもヨドリックニュースを25年間も携わると共に、我々のリーダーとして後進をやさしく指導され時には厳しく、今も現役で活躍されております。お会いして15年ほどになりますが相談役は、「継続は力なり」ということわざを地で行く素晴らしいアイデアの持ち主でゆく川の流れのような人です。

今年の夏の8月20日(日)には、素晴らしい子どもたちが近畿からたくさん集まり、子どもと楽しい水辺に学ぶイベントが大阪ふれあいの水辺で開催されます。近畿「子どもの水辺」交流会 in 大阪2023です。

コロナ禍が起こって22000時間ほどの時間が過ぎ、我慢していた社会が一気に「わあ～」と声を出しイベントが動き始めました。そして、近年は、日本の各地に異常と思うような雨の降り方がこれまで経験したことがない状況です。そこには線状降水帯という厄介な問題として、今年も日本列島各地で起こっております。みなさん、気を付けてください。

相談役の河川功労賞受賞をあらためて、お祝い申し上げます。「おめでとうございます」。

編集長 岡崎善久 (岡崎善久建築設計事務所)